

令和元年度 中等教育研究会 社会科分科会

# 教科総論について (3年次)

# 研究主題

社会の形成者としての  
資質・能力を育む授業の創造

～社会科における「見方・考え方」を  
働かせた学びを通して～

# 社会の形成者としての資質・能力

○ 社会参画の態度

○ 他者と対話する能力

○ 新たな課題を見出す能力

☆ 多面的・多角的な考察・構想

☆ 課題解決の能力

□ 社会的事象や課題の理解

□ 情報を読み取る能力

学びに向かう力  
人間性等

思考力・判断力・表現力等

知識・技能

## 見方・考え方（本校としての捉え）

- 分野固有型
  - 分野横断型
  - メタ認知型
- 
- The diagram consists of three bullet points on the left. The first two, '分野固有型' and '分野横断型', are grouped by a large right-facing curly bracket. A large grey arrow points from this bracket to a yellow box containing the text '本校の捉える「見方・考え方」'. The third bullet point, 'メタ認知型', has a large grey arrow pointing directly to a second yellow box containing the text '生徒の「学習の有り様」'.
- 本校の捉える  
**「見方・考え方」**
- 生徒の  
**「学習の有り様」**

# 見方・考え方を働かせる

学習指導要領でいうところの「見方・考え方」にあたる。追究のための視点や方法。解釈のための「概念的枠組み」。

3分野にわたって、単独で働かせたり、組み合わせで働かせたりする。

例：地理的分野－位置、空間的広がり  
人間の営みと関連付けて  
歴史的分野－時期、推移  
事象同士を関連付けて  
公民的分野－概念的枠組み  
多様な概念を関連付けて

# 見方・考え方を働かせるための工夫

① 問いや学習過程の工夫

② S E L F との連携

③ 小学校社会科との連携

# ① 問いや学習過程の工夫

## ② SELF との連携

○見方・考え方を働かせる中で、問いを設定したり、課題の追究や解決に取り組んだりする中で、見方・考え方を働かせる。

⇒生徒のもつ問い＝教師が考えさせたい問いに近づけるよう、

(1) ねらいの明確化

(2) 学習内容の構造化と焦点化

⇒探究的な学習過程

### ③ 小学校社会科との連携

⇒ 小学校段階で育まれてきた「見方・考え方」を働かせる。

⇒ 小学校までの学習を通して形成されてきた認識を揺さぶる。

# 昨年度の実践

資質・能力を見取る評価の工夫として、

## (1) 「学習の記録」

単元の終末や毎回の授業の振り返りを記入する。

## (2) パフォーマンス課題

単元の学習を通して育まれた資質・能力を発揮して課題に取り組む。

# 3年次の研究

①見方・考え方を働かせた学びを実現した授業の在り方

- ・とくに「問い」や「教材」に着目して。

②評価の工夫

（「学習の記録」とパフォーマンス課題）

- ・「社会の形成者としての資質・能力」が育まれたかを評価する方法としての妥当性

- ・生徒の学習調整につなげる。

（「メタ認知型」の考え方、「主体的に学習に取り組む態度」の評価）

# 学びの記録

○毎時間、「単元の学習課題にどこまで迫れたか」「迫るためには何を学ぶべきか」を問う。

○単元の学習課題に対する結論を記述させる。

※単元の学習課題に迫る

=資質・能力が育まれている

○単元の学習を資質・能力ベースで振り返らせる。

## (1) 妥当性

生徒の記述に、どこまで資質・能力が育まれたかが表れる。

## (2) 生徒の学習調整

生徒自身が、自らの学習を意識し、次の学びをめざす。

# パフォーマンス課題

○パフォーマンス課題の設定

○ルーブリックの工夫・活用

## (1) 妥当性

生徒が課題に取り組む中で、資質・能力が発揮される。

## (2) 生徒の学習調整

ルーブリックを用いて自らの学習を振り返り、次の学習に活かす。

ルーブリックをつくることを通して、生徒が自らの学びを深める。

令和元年度 中等教育研究会 社会科分科会

# 授業実践について

# 授業実践について：学習の記録

①今日の授業を通して、理解したこと、気づいたこと、できるようになったことを書こう。

第一次世界大戦は、サエボ事件から起きたことがわかった。世界の国々の関係は、一時的な行動だけが変えてしまうことができた。と思った。

②今日の授業を通して、理解したこと、気づいたこと、できるようになったことを書こう。

日本は連合国側として参加したことにより、中国の鉄道の租借期間を伸ばすことができたことがわかった。

☆授業内容の羅列が目立つ。

# 授業実践について：学習の記録

## 【毎時間の振り返り】変更後

- ・目標に迫れたかを問う。

②今日の授業を通して、単元の目標に迫ることができましたか？

1つは、始めはアメリカに占領されて  
民主化を目指していたが、そこから独立し、  
現在まで続く政党政治に突入した時代  
が、こういうことがあった。

③今日の授業を通して、単元の目標に迫ることができましたか？

1つは、経済成長は70年が「続き、  
経済が急進した時代」という  
ことがあった。

☆学習課題の解決に向けて、分かったことの記述が増えた。

# 授業実践について：学習の記録

## 【学習課題に対する結論】

Q 戦後、昭和時代はどのような時代だったのか？

単元の学習後

私は、政治と産業が発展したことで、国民が以前よりも豊かな暮らしができるようになった時代だと思う。なぜなら、この時代民主化が盛んになったことにより、国民一人一人の人権が尊重されるようになった。重化学工業が発展し、三種の神器などの後世にも伝わる家電がつくられるようになったことで、国民が人間らしい生活を送り、豊かな暮らしができるようになった。また、国際連合に加入したり、日本国憲法が成立したことで、日本が先進国の一国として、発言できるようになった。国民がより平等になり、平和への意識がより高くなった時代だ

☆単元の目標に迫る姿が見取れる。

# 授業実践について：学習の記録

## 【次の授業で学習すべきこと】

- ・次に何を学習する必要があるか問う。

・次の授業では、単元の目標の達成のために何を学ぶ必要があると思いますか？

トクの様子から昭和時代を  
より詳しく学ぶ必要があると思う

・次の授業では、単元の目標の達成のために何を学ぶ必要があると思いますか？

トクらの生活の変化を学ぶ必要  
があると思う。

☆これまでの学習の流れを活かした記述。授業につなげることは難しい。

# 授業実践について：学習の記録

## 【単元の振り返り】

・単元の学習前後を振り返らせる。

☆学習の成果が表れている。これが次の時代を考える時に活用される。

＝学習調整

★学習前と学習後を比べて、分かるようになったこと、できるようになったことを書こう。

イメージだけで決めつけるのではなく、起ったことな心を根拠に、考え、日本の変化、国民に対する考え方、国民の生活など、色々な事を考えようとした。  
また、別の時代と比較し、分析で、何がどう変化したかを考えられた。

# 授業実践について：学習の記録

## 【考察】

- ・ 資質・能力を見取ることができる。
- ・ 単元の学習を振り返らせ、生徒の学習調整を促すことができる。そのためには、各単元で同じような学習活動を仕組むことも大切である。
- ・ 毎時間の振り返りをどのように授業に活かしていくかが課題。

# 授業実践について：パフォーマンス課題

## 【戦前・戦中の昭和時代】

- ・単元の終末で、本時と同じ学習活動
- ・選んだ出来事と教科書の年表を比べる学習活動。

# 授業実践について：パフォーマンス課題 【学習後の生徒の振り返り】

- ・ どちらからの視点でも、選ばとよい
- ・ やはり、とても大切なもの、歴史の転換点を選ら"イ"て
- ・ 今後も伝えていくべき事件

- ・ 一目見て「こんな時代だったんだろうな」と分かる。(年表なので見やすさ重視。)
- ・ 当時の日本の風潮や人々の様子とくみとった内容を文らんだ方がよい。
- ・ 年表なので時代の長さに対して、まんべんなくでま"ジ"が入っている。  
→ 各場面において国の現状がわかるもの。  
変化がわかるもの。

・ 戦争の原因とせ"ら"たか

↳ ・ 政治面  
・ 国際面

・ 影響が大きい事件か

・ その後の日本へとつな"が"いるもので女子か

# 授業実践について：パフォーマンス課題

## 【ループリックの作成】

時代の特色が明確になる

時代の転換点が説明される

様々な側面から時代をみる

様々な立場から時代をみる

後世に影響を与えている

# 授業実践について：パフォーマンス課題

## 【ループリックを用いた評価】

- 5つの視点がクリアできたらA
  - 4～3つの視点がクリアできたらB
  - 2～1つの視点がクリアできたらC
- という形で評価させた
- ⇒評価に目がいって、自分自身の学びを深めることが難しい。
- ⇒段階的な評価はつけさせない。

# 授業実践について：パフォーマンス課題

## 【戦後の昭和時代】

- ・単元の終末に、本時と同じ学習活動

## 【生徒の姿】

- ・自分なりに時代像を明確にして説明。

☆同じ学習を繰り返すことで、学習調整をしている。

☆自分たちでループリックをつくることで学びが深まっている。

# 授業実践について：パフォーマンス課題

## 【生徒の説明】

日本の経済が大きく  
変化した時代

1 高度経済成長

2 東京オリンピック

3 石油危機

# 授業実践について：パフォーマンス課題 【生徒の説明】

戦いなく友好を築いた時代

- ① 日本国憲法の公布
- ② 国際連合への加盟
- ③ 東京オリンピック開催

# 授業実践について：パフォーマンス課題

## 【生徒の説明】

情報社会に大きく近ずいた時代

東京オリンピック

文化の大衆化

マス = メディア

# 授業実践について：パフォーマンス課題

## 【生徒の説明】

発展と改善の時代

サンフランシスコ平和条約

・東京オリンピック

・公害対策基本法



# 授業実践について：パフォーマンス課題

## 【生徒の振り返り】

「経済の発展」と「日本の独立」の時代だ」と思っていたけれど、90年代の話し合いを通して「平和になった、時代だ」とも言えると思った。

後世に与えた影響を明確にすることができるようになった。

最初に選んだときよりも、戦後の昭和時代と様々な側面、立場から考えられるようになった。

☆生徒自身の時代観が深まったり、変化したりしている。

# 授業実践について：パフォーマンス課題

## 【生徒の振り返り】

前のものでは日本からの見方しかかけていなかったけれど、外国からどのようにしようとしたのかもかけた。

また、政治的な面のみではなく経済的な面からも見ることもできた。 ↓

様々な角度から見ると同じ内容でもより深く知ることができると思った。また、その物事の見方が変わっていくと思った。

☆新たな側面や立場に着目できるようになった。＝より多面的・多角的に。

# 授業実践について：パフォーマンス課題

## 【考察】

- ・ 資質・能力を見取ることができる。
- ・ ルーブリックを用いた相互評価・自己評価が生徒の学びを深める。  
＝生徒の学習調整
- ・ 生徒の学習調整には、同じ学習を繰り返すことも必要。
- ・ 生徒と共にルーブリックをつくることで、生徒の学びが深まる。

令和元年度 中等教育研究会 社会科分科会

# 本時について

# 本時までの学習

(1) 自分たちの「平成時代」観を記述。保護者にもインタビュー。

- 平成16・17年生まれの生徒たち。
- 生徒：平成時代の後半の出来事
- 保護者：平成時代の前半の出来事

# 本時までの学習

## (2) 世界情勢

- 冷戦の終結
- グローバル化の進展と地域主義
- 地域紛争とテロ

## (3) 政治

- 55年体制の終わり
- 自民党中心の連立政権
- 民主党による政権交代
- 郵政民営化

# 本時までの学習

## (4) 経済

- バブル景気とその崩壊
- 平成不況

## (5) 国際社会における日本

- PKO協力法
- 自衛隊のイラク派遣
- ODA、NGO
- 東アジア諸国との関係
- 環境問題への対応

# 本時

- ①生徒なりの「平成時代」観を表現できたのか。（単元の目標に迫る姿）
- ②学び合いを通して、生徒の考えは深まったのか。（学習調整）
- ③ルーブリックは活用されたのか。

以上です。

ご清聴ありがとうございました。